

姫路朝祷会奨励
「万事を益として下さる神」

ローマ人への手紙 8 章 26 ～ 31 節

姫路あけぼの教会 廣田守男

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのため
には、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

(28)

皆様おはようございます。本日、姫路朝祷会に於いて久しぶりにメッセージをさせていただくことになり感謝しています。

小生の健康の不具合により、何度も朝祷会のメッセージの機会を与えられていながら度々失礼してしまい、申し訳なく思っております。そのような小さな者を覚えて皆様方がいつもお祈り下さり心から感謝しております。

今年の7月7日、8日に全国キリスト教障害者団体協議会の総会・修養会を神戸のANA プラザプリンスホテルで開催しました。その時、夕食後の親睦会の席上で小生は自分のことを次のように挨拶しました。「今年10月2日に透析治療を開始して40年を迎えます。もし透析を受けていなければ皆さん方との交わりに加わることはなかったのではないかと覚えます。兵庫共励会の皆様との交わりだけでなく、全国キリスト教障害者団体との交わりにも与ることは無かったことを覚える時、透析治療を受けるようになったことを感謝しています。当初は10年か15年の寿命と宣言されていました。その故に残されたいのちをどの様に生きるかを考え、神様の導きを求めていた時、現在地での開拓伝道を示されたのです。広島県の呉市から導かれて早や39年になろうとしております。これも透析を受け出してから与えられた恵みであることを覚え感謝している次第です。

私が東京聖書学校を卒業する時に、当時、校長であられた淀橋教会の小原十三司牧師に「み言葉を下さい」と先生の著書「泉あるところ」を持って牧師館に行きました。その時に署名して下さったみ言葉が今読んで戴いたローマ人への手紙8章28節だったのです。これは小原十三司牧師が翌年1月に召されなさいますまで経験してこられた人生の縮図のみ言葉であったことを覚える次第です。小原牧師は淀橋教会の牧師として、大正、昭和のリバイバルを体験され、ホーリネス教団の分裂事件や戦時中にはホーリネス団体への弾圧のため教会を解散させられ、刑務所で禁固刑を受けて独房生活をされ、戦後の牧師として復職し、淀橋教会の再建に尽力され、東京聖書学校の校長など、82年の生涯を通して様々な体験をされた中で深く味わってこられたみ言葉であることを覚えさせられている次第です。

ローマ人への手紙 8 章 2 8 節のみ言葉の前後を読みますと、私たちは「御霊の働き」、「うめき」「とりなし」により現在あることを覚えるのです。御霊は「罪につき、義につき、審きについて世の人に知らせる」とあります。そのことによって自分が如何に罪深い者であるかを知らされるのです。それに続いて「神に向かつては悔い改め、主イエスに向かつては信仰すべし」とあるように、御霊に働きにより「イエスは主」と告白して洗礼の恵みに与り、救いの恵みに与り、神様の愛の中に生かされる歩みに導き入れられたのです。また私たちは先ず神様に愛されている事を通して、私達も神様を愛し、神様に仕え、人に仕える者とされている恵みを感謝したいと思います。その歩みをしている者にとっては「万事」を益とされるというのです。

この「すべてのこと」の中には、勿論、嬉しい事、喜ばしいこともあります。そればかりではなく、自分にとって不都合なこと、悲しいこと、辛いこと、忘れてしまいたいと思う失敗や悲しみや痛みも含まれているのです。それらは「今知らず、後知るべし」と後になってすべてが益と変えられたと知ることが出来るのです。その恵みをここにおられる皆さん方も既に経験しておられ、このみ言葉を暗唱聖句の一つに挙げておられる方も多いことと思います。

しかしこの益となるとのみことばには、前後関係を読みますと実はそれだけではなく、もっと深い意味があるのです。それは私たちひとり一人が、神様の一方的な選びによって救われ、神様の恵みの中に生かされているのです。その究極の目的は「御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められ」その「栄光に与る者とされる」ということです。コリント人への手紙第二 3 章には主の栄光を鏡に反映させられながら「栄光から栄光へと主と同じ姿に変えられる」と約束されています。ガラテヤ人への手紙 5 章では御霊の実を結ぶ者と変えられると約束されています。

その意味で「すべてのことが益」とされるのです。クリスチャンとは使徒の働き 11 章 26 節を読みますとキリスト者に対する呼び名としての名称ですが、「キリストに似た者」という意味があるのです。私たちは皆、荒削りのクリスチャンであるかも知りません。しかし失望することはないのです。神様は私たちひとり一人の現実を知って、更に「キリストに似た者にしてくださる」との希望が与えられているのです。ですから「いつも喜んでいなさい、絶えず祈りなさい。すべてのことを感謝して」歩む恵みに与らせていただいているのです。感謝しましょう。